金城学院大学　シラバス

開講年度(Year)	2021年度	開講科目コード(Course code)	37340002
授業科目名(Course name)	声楽（８）		
担当者(Instructors)	吉田 恭子		
開設学部学科(Department)	文学部　音楽芸術学科	科目分類番号(Course classification number)	263
開講クラス(Class)	音４声	開講形態 (Course format)	実技
科目区分(Course classification)	専門教育科目 専門教育科目	単位数(Credits)	2
開講期・曜日・時限(Semester / Day of the week / Period)	後期 火曜２限	担当形態 (Instructor format)	単独
実験実習費（円）(Experiment/training fee (yen))	5,000	履修者数上限（名）(Maximum number of students)	

他学部他学科生履修不可(No other undergraduate departments students can study)

■授業の概要(Course outline)

さまざまな作曲家や音楽様式の作品を演奏するためには、正しい発声の会得や発音、そして詩の解釈は必要不可欠である。この授業では個人レッスンでベルカント唱法を理解していき、歌唱時の姿勢や呼吸、息の運び方など、基礎的なことを基に、自分の体と心に向きあいながら、無理のない自然な声と、更に、それを伴う且つ楽曲に適した音楽表現を確立していく。また自分の声とキャラクターにあったレパートリーを考察していく。

■到達目標(Course goals)

オペラ作品をふまえたより高い歌唱技術と音楽表現法を修得している。

■履修上の留意点(Important points)

■学位授与方針 (Diploma policy)

１．知識・理解

音楽芸術に関する専門的知識と演奏技能を身につけるとともに、豊かな人間性を支える教養と深い専門的知識を身につけている。 ◎

２．汎用的技能

音楽芸術の実技と理論を通じて身につけた感性と思考力を用いて、物事を的確に分析し考察することができる。 ◎

日本語や英語で多様な人々とコミュニケーションを行うとともに、音楽演奏を通じて様々な楽想を適切に表現し伝えることができる。 ◎

４．統合的な学修経験と創造的思考力

これまでに修得した知識・技能・態度等を総合的に活用して、新たな研究課題に取り組むことができる。 ◎

■授業計画(Lesson plan)

1. 『連隊の娘』研究１　ドニゼッティのオペラ作品について
2. 『連隊の娘』研究２　『連隊の娘』について
3. 『連隊の娘』より　”さようなら”　を用いて１　楽曲研究
4. 『連隊の娘』より　”さようなら”　を用いて２　実践
5. 『カプレーティ家とモンテッキ家』研究１　ベッリーニのオペラ作品について

6. 『カプレーティ家とモンテッキ家』研究２　『カプレーティ家とモンテッキ家について
7. 『カプレーティ家とモンテッキ家』より　”ああ、幾度か”を用いて１　楽曲研究
8. 『カプレーティ家とモンテッキ家』より　”ああ、幾度か”を用いて２　実践
9. 『ラ・ボエーム』研究１　プッチーニのオペラ作品について
10. 『ラ・ボエーム』研究２　『ラ・ボエーム』について
11. 『ラ・ボエーム』より　”わたしの名はミミ”を用いて１　楽曲研究
12. 『ラ・ボエーム』より　”わたしの名はミミ”を用いて２　実践
13. ピアノ伴奏同伴での試験曲のレッスン～お互いの呼吸を感じて～
14. ピアノ伴奏同伴での試験曲のレッスン～試験を心がけて～
15. 授業内実技試験と講評

■授業時間外学修（予習・復習）の内容・時間(Preparation/review details and time)

授業内で見つけた課題達成のために、日々の練習や研究を行う

■課題／課題に対するフィードバックの方法(Assignments/feedback)

各授業で先回の課題が達成されているか、また次回までの課題を確認する。

フィードバックは授業時に随時対応する。

■テキスト・参考書(Textbooks/references)

コンコーネ、パノフカ、ヴァッカイなどの声楽教則本やアリア集、オペラヴォーカルスコア等
＊学生の技量と進度に応じて

■評価方法(Evaluation method)

実技試験　70%

授業への取り組み　30%

■授業時間外の学生からの質問への対応(Responding to questions from students outside class hours)

授業時間前後やKmail等で随時受け付ける